

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-276	高等学校	芸術科	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美 I 701	美術 1		

1. 編修の基本方針

「もっとつくりたい、もっと見てみたい」

教科書を開いた生徒たちが、「もっとつくりたい、もっと見てみたい」と思える紙面になるよう心がけました。多様な作品を掲載したり、制作の過程を丁寧に紹介したりすることで、創造的な表現や鑑賞の意欲を高める教科書を目ざしました。中学校美術科で培った美術の基礎的な力をさらに伸ばし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てられるように、次のことを基底において編修しました。

1 造形的な見方・考え方を育む

—— 中学校美術科で培った造形的な見方・考え方を、さらに育んでいくことができる教科書です。

中学校美術科で培った造形的な見方・考え方をさらに育成するため、形や色彩などを意識して鑑賞させる作品配置にしたり、適宜、造形的な視点に関わる問いかけを入れたりしました。

2 主題生成のための手がかりを示す

—— 主題を生むための手がかりを詳しく紹介している教科書です。

各題材において、作品の発想のしかたや表現技法などを具体的に示し、生徒たちがみずから作品の主題を生み出せるようにしました。掲載作品については、作者の表現の意図を示したり、関連性のある作品を比較して鑑賞させたりすることで、作者の表現の工夫を感じ取らせる工夫をしました。

3 生活や社会に広く関わる美術の力を育てる

—— 生活や社会の中での美術の役割について考えられる作品と出会える教科書です。

身の回りの物や風景を捉え直したり、社会の中にあるデザインについて考えたりする題材を位置づけ、生活や社会の中で、美術や美術文化がどう関わっているかを知り、自分の表現に活かせるようにしました。

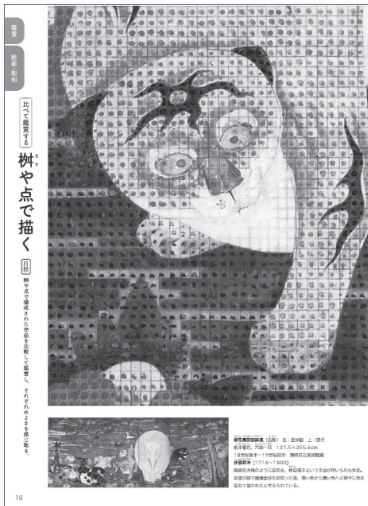
1

造形的な見方・考え方を育む

—— 中学校美術科で培った造形的な見方・考え方を、さらに育てていくことができる教科書です。

造形的な視点で比較し、鑑賞する題材

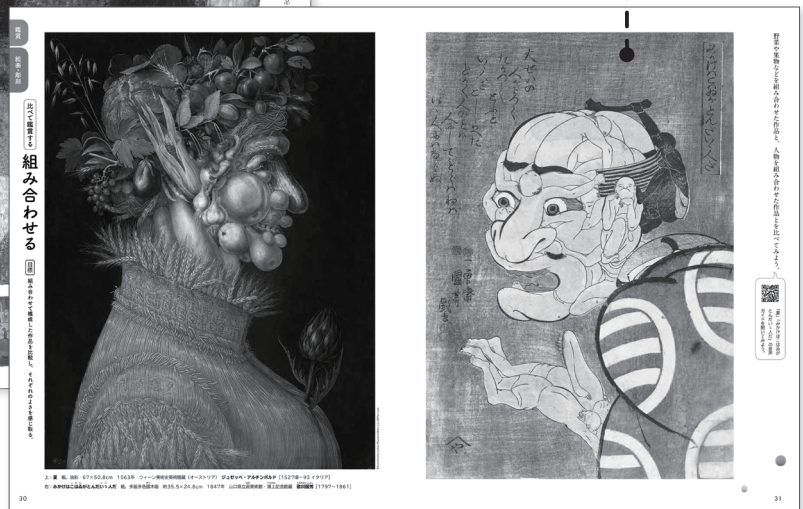
「比べて鑑賞する」という題材を設け、「柵や点で描く」「組み合わせる」などの観点で、日本と海外の作家の作品を並べて掲載。造形的な視点で、両者を比較して鑑賞することで、作者の表現の工夫を感じ取り、造形的な見方や考え方を育成します。



P.10~11「比べて鑑賞する 柵や点で描く」



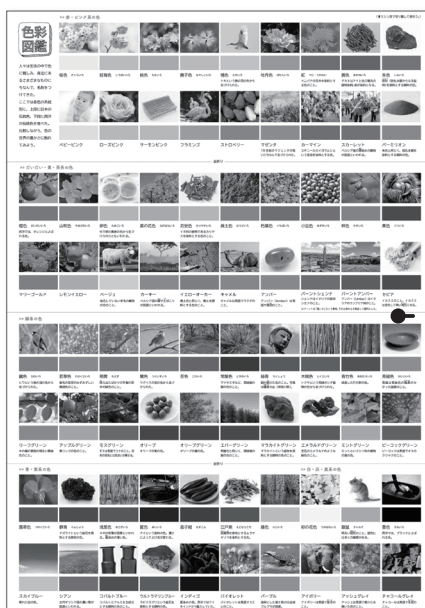
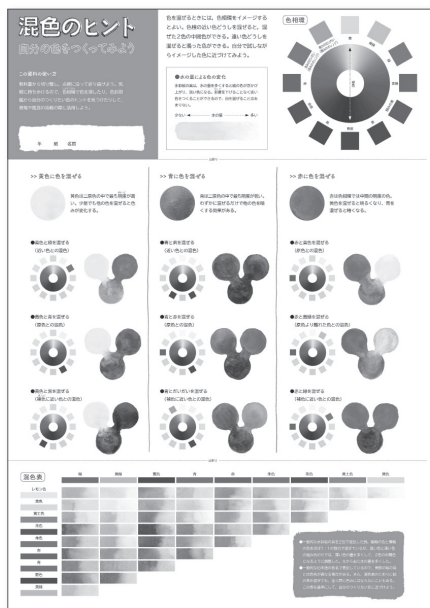
細部まで鑑賞できるよう、見開きで2点、大きく掲載しました。



P.30~31「比べて鑑賞する 組み合わせる」

色彩についての理解を深める「混色のヒント」と「色彩図鑑」

色彩についての理解を深めることができるよう、巻末に「混色のヒント」と「色彩図鑑」を綴じ込みました。切り離して持ち運ぶことができるので、表現や鑑賞の活動の際に、いつでも活用することができます。



マシン目で切り離して折り曲げることで、気軽に携帯して活用することができます。

切り離し式「混色のヒント・色彩図鑑」

2

主題生成のための手がかりを示す

—— 主題を生むための手がかりを詳しく紹介している教科書です。

作家の制作過程を詳しく紹介し、主題を生み出す手がかりを示しました

表現中心の題材には、「作家の手法」という作家の制作過程を詳しく紹介するページを設けました。生徒が作品の主題を生み出す手がかりになるよう、作家が作品をどう発想し、作りあげていったかを丁寧に示しました。



「生命感をあらす」という彫刻の題材では、彫刻家・三沢厚彦の、制作過程を詳しく紹介しました。アイデアスケッチを重ね、試行錯誤しながら作品を彫り進めていく様子がわかります。

P.40~41「作家の手法 三沢厚彦」

3

生活や社会に広く関わる美術の力を育てる

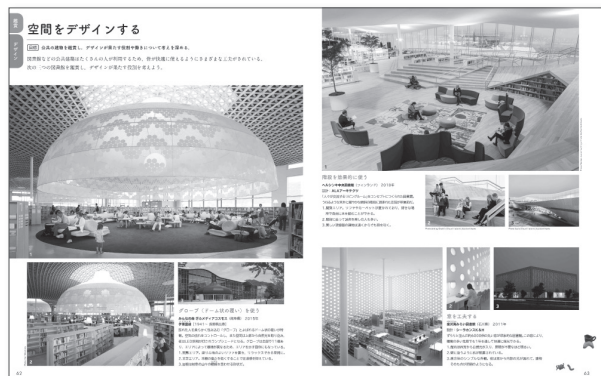
—— 生活や社会の中での美術の役割について考えられる作品と出会える教科書です。

生活や社会の中でのデザインの役割について考えさせる題材を設けました

特にデザインの題材において、生活や社会の中でデザインがどのような役割を果たしているのか、考えを深めることのできるよう作品選定などを工夫しました。



P.48~49「メッセージを広く伝える」



P.62~63「空間をデザインする」

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
はじめに	美術の活動へと誘う「美術は自由だ」という文章を掲載し、生徒が真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うよう配慮した。【第一号】	P.2-3
	自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うため、他者と作品を共同で制作する過程などを掲載した。【第三号】	P.4-5
絵画・彫刻	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.6-47
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.6-47
	現在活躍している作家を取り上げ、作品をつくるうえでの考えや制作過程を紹介した「作家の手法」を掲載し、作家としての生き方に触れ、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	P.8-9 P.24-25 P.28-29 P.35 P.40-41
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、公共空間に設置する彫刻作品を考える題材を設定した。【第三号】	P.42-43
	生命を尊び、自然を大切にすることを養うため、植物や動物、自然物などから感じ取ったことをもとにあらわす題材を設定した。【第四号】	P.6-9 P.22-25 P.38-41
	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、我が国で大切にされてきた美術文化を積極的に掲載した。【第五号】	P.12-21 P.36-37
デザイン	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.48-65
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.48-65
	現在活躍している作家を取り上げ、作品をつくるうえでの考えや制作過程を紹介した「作家の手法」を掲載し、作家としての生き方に触れ、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	P.50-51 P.53 P.57
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、ポスターやサイン、空間デザインなど、公共の場におけるデザインの働きを取り上げた。【第三号】	P.48-53 P.62-63
	自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うため、環境をテーマにしたポスターや、自然物をモチーフにした文様などを掲載した。【第四号】	P.49 P.54-55
	平和を訴えるポスターや、諸外国の文化を反映した文様などを掲載し、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第五号】	P.48-50 P.54-56
映像メディア表現	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.66-76
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.66-76
	現在活躍している作家を取り上げ、作品をつくるうえでの考えや制作過程を紹介した「作家の手法」を掲載し、作家としての生き方に触れ、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	P.76
	生命を尊び、自然を大切にすることを養うため、人物や動物などから感じ取ったことをもとにあらわした作品を掲載した。【第四号】	P.66-71
資料	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うよう、絵の具や色に関する資料、美術史、デザイン史、写真史などを掲載した。【第一号】	P.78-79 P.108-119 P.121-124
	技法や用具の使い方、発想の広げ方、鑑賞の手立てなどを汎用性の高い内容に整理して掲載し、生徒自身が必要に応じて参照することで、自主及び自律の精神をもって学習を進められるように配慮した。【第二号】	P.80-107 P.114-119 P.121-124
	自然に親しみ、大切にすることを養うため、自然物に由来する日本や西洋の伝統色を取り上げた。【第四号】	P.121-122
	我が国の伝統と文化とともに他国を尊重する態度を養うため、日本及び諸外国の美術作品やデザイン、写真の歴史などを掲載した。【第五号】	P.108-113

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-276	高等学校	芸術科	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美 I 701	美術 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「高等学校学習指導要領 第1章 総則」および「第2章 第7節 芸術」, 「第2款 第4 美術 I」に示された内容に基づいて編修しました。美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指しました。さらに、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、次のことを基底において編修しました。

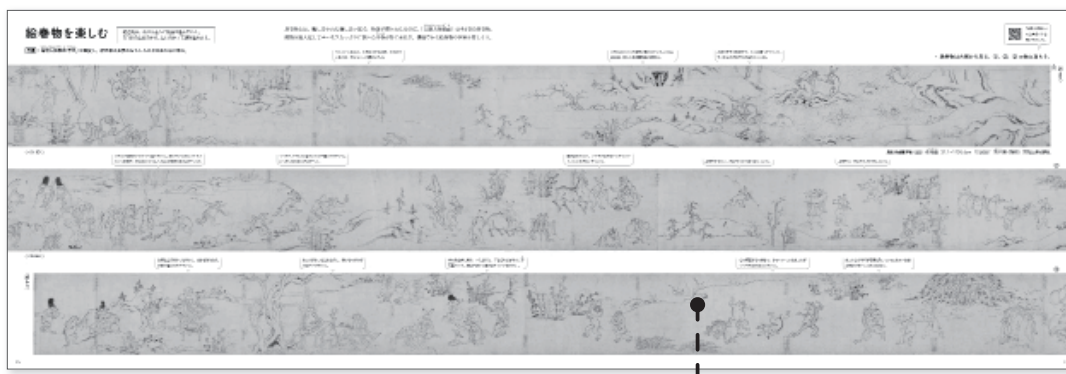
①教科書の構成

学習指導要領の構成に合わせ、A 表現の「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」と B 鑑賞の領域、巻末資料とに分けて整理しています。また、それぞれが一目で分かるようにインデックスで色分けをし、授業で活用しやすいようにしました。また、授業でよく行われる題材については4ページの構成にし、表現の手立てを詳しく示しました。創造的な表現や鑑賞の意欲を高めるため、適宜、次のようなページを設けています。

- ・「**作家の手法**」……作家が作品をどう発想し、どのように作りあげていったのかを詳しく紹介。生徒が主題を生み出し、発想して構想する手がかりとして設けました。
- ・「**比べて鑑賞する**」……「柵や点で描く」「組み合わせる」などの観点ごとに、日本と海外の作品を大きく掲載し、比較して鑑賞することで、作者の表現の工夫を感じ取れるようにしました。

②造本上の工夫

襖絵や絵巻物を鑑賞する題材は、風合いのある用紙に印刷したり、制作に活用できる「混色のヒント」や「色彩図鑑」は切り取り線を入れて、切り離し式にしたりするなど、生徒たちの鑑賞や表現の活動を豊かにするため、さまざまな造本上の工夫を施しました。



P.15~18「絵巻物を楽しむ」

絵巻物を鑑賞する題材では、風合いのある用紙4ページに、ダイナミックに印刷。絵巻物のストーリー性を感じとったり、本物に近い風合いで鑑賞したりできるようにしました。

③巻末資料の充実

新たに設けられた〔共通事項〕に対応するため、巻末資料をさらに充実させました。

【技法に関する資料】

鉛筆、水彩絵の具、油絵の具、アクリル絵の具、日本画の絵の具などは、画材の特性や用具の扱い方、画材の特徴を生かした描き方を丁寧に紹介しました。また版画や彫刻に関する技法についても、作品をつくる手順を写真とともに詳しく紹介しています。

【映像メディア表現に関する資料】

写真や映像を撮影する方法を、具体例を示しながら詳しく紹介しました。また、アニメーションへの理解を深めるため、ページ下に「パラパラアニメ」を配置しました。

【美術史に関する資料】

日本及び諸外国の美術史を整理した「美術史年表」に加え、キーワードとともにデザインの歴史をたどる「デザイン史年表」、撮影機材の進歩とともに写真の歴史をたどる「写真史年表」を設け、美術文化に関する知識が深まるように配慮しました。

【色彩に関する資料】

色彩に関する理解を深める「色の性質」「色の効果」「配色のヒント」などの資料に加え、切り離して使える「混色のヒント」「色彩図鑑」を綴じ込みました。気軽に持ち運べ、表現や鑑賞の活動のさまざまな場面に活用することができます。

【その他の資料】

「文字をデザインする」「発想の広げ方」などの題材と関連したさまざまな資料や、「美術館を楽しむ」という美術館の楽しみ方を具体的に示した資料、「美術鑑賞を楽しむ手がかり」という美術作品を鑑賞するステップを紹介した資料など、表現や鑑賞の活動に生かせる多様な資料を用意しました。

④二次元コードでさらに深い学びへ

各題材や巻末資料には、適宜、二次元コードを掲載し、関連するウェブコンテンツへリンクしました。

【音声ガイド】

大きく掲載する鑑賞図版には、作品に関する情報をコンパクトにまとめた音声ガイドを用意し、鑑賞を深められるようにしました。

【技法動画】

鉛筆デッサン（静物、石膏像）、風景画、油彩画、日本画などは、描く手順を動画でわかりやすく紹介しました。また、彫刻（塑造）や、版画（多版多色刷木版）をつくる手順も動画で詳しく紹介しています。

【作家の制作過程を記録した動画】

「作家の手法」で紹介した作品の制作過程を動画にし、作者の表現の工夫をさらに捉えやすくしました。

【生徒作品】

全国の生徒作品を掲載したウェブコンテンツを用意し、関連する題材にリンクさせました。多様な生徒作品を鑑賞することで、自分の表現へ生かすことができます。

全国の高校生の作品を集め、カテゴリごとにまとめたコンテンツへ適宜、リンクを貼っています。作品画像をクリックすると、拡大図版と「作者の言葉」を確認することができます。



【関連ウェブサイト】

作家作品の動画や、作家のウェブサイトなど、関連するサイトにリンクさせました。

教科書の特徴

編集上の留意点	
教育基本法・学校教育法との対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法, 学校教育法の理念を踏まえ, 美術の学習を通して幅広い知識と教養を身につけ, さらに, 「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など, 生きる力を支える能力を養えるよう配慮しました。
学習指導要領との対応	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の目標および内容をもれなく指導できるよう, 題材を選定・作成しました。 各題材の目標を明確にし, 表現や鑑賞の活動を通して「発想や構想に関する資質・能力」, 「技能に関する資質・能力」, 「鑑賞に関する資質・能力」を着実に身につけられるよう, 全体を通して系統的に配列しました。
題材の配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> 「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」という分野ごとに構成し, 題材の内容に応じて「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と明記することで, 生徒が学習の内容をイメージしやすいよう配慮しました。 巻末に, 材料と用具や〔共通事項〕に関わる資料をまとめた「資料」を設け, 生徒が必要に応じて活用できるようにしました。
掲載作品の選定	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階や, 生徒の学習意欲を喚起することを考慮し, 作品を選定しました。 掲載作品については, 地域や時代, 性別に偏りが出ないように配慮し, また, 生徒の主體的・対話的な学びが生まれるような作品を選定しました。
主體的・対話的で深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の作品の掲載意図を明確にし, 生徒が主體的に学習に取り組めるようにしました。 作家の制作過程を詳しく示すことで, 「自分ならどう作品をつくりたいか」と主體的に考えられるよう, 工夫しました。 生徒が主體的に表現活動を行えるよう, 巻末資料を充実させました。
〔共通事項〕への対応	<ul style="list-style-type: none"> 各題材に適宜, 〔共通事項〕に関わる問いかけを入れ, 生徒が〔共通事項〕を意識できるようにしました。 巻末資料で, 〔共通事項〕に関わる内容を多く取り上げました。
伝統・文化の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> 日本美術を大きく取り上げてそのよさを感じ取らせる工夫をし, 我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるようにしました。
安全指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 巻末資料では, アクリル絵の具を使うときの注意点や, エッチングを制作する際に腐食液を使うときの注意点を, 注意喚起のマークとともにわかりやすく示しました。
知的財産権や肖像権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 作品には著作権があることや, 写真や映像にうつった人には肖像権があることを紹介し, それらを利用するときはルールを守ることを, 注意喚起のマークとともに示しました。
特別支援教育への配慮	<p>教科書のユニバーサルデザイン, カラーユニバーサルデザイン(色覚特性)と, 学習上支援が必要な生徒のために, 特に以下の点に配慮しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の全てのページについて, 専門家の校閲を受けました。 図版と図版の間を空けたり, 罫線を引いたりして, 境界を明確に区別できるようにしました。 文字がやや小さくなる場合は, 読みやすさを強調してつくられたUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しました。
製本・印刷など	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞図版や文字が鮮明に印刷できる, 発色のよいコート紙を使用しています。 環境への負荷が少ない, 用紙・植物油インキを用いています。 製本は堅牢で, 生徒がページを開きやすいよう綴じ方にも工夫をしています。 鑑賞活動がより深まるように, 襖絵や絵巻物を鑑賞する題材では, 風合いのある紙に印刷をしています。
中学校美術科との接続	<ul style="list-style-type: none"> 中学校美術科との接続を意識し, 始めに位置づけた題材「身近なものを描く」では, 既習の表現方法を使って, 気軽に描ける内容にしました。 中学校美術科で学習することの多い「鳥獣人物戯画」や葛飾北斎の作品を掲載し, 中学校での既習内容から発展的な紹介のしかたをしています。

2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領の内容			該当箇所
		A 表現	B 鑑賞	【共通事項】	
はじめに	美術は自由だ	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.2-5
絵画・彫刻	身近なものを描く	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.6-9
	比べて鑑賞する 柵や点で描く		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.10-11
	墨で描く	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.12-14,19
	絵巻物を楽しむ		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.15-18
	作家の生涯と作品 葛飾北斎		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.20-21
	風景を描く	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.22-25
	想像した世界を描く	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.26-29
	比べて鑑賞する 組み合わせる		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.30-31
	自己をあらわす	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ) (3) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) (ウ) イ (イ)	(1) アイ	P.32-35
	仏像の美		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.36-37
	生命感をあらわす	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.38-41
	場所との対話	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.42-43
	作家の生涯と作品 バプロ・ピカソ		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.44-47
	デザイン	メッセージを広く伝える	(2) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ
マークやサインで伝える		(2) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.52-53
文様で飾る		(2) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.54-57
パッケージのデザイン		(2) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.58-59
比べて鑑賞する スプーンのデザイン			(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.60-61
空間をデザインする			(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.62-63
作家の生涯と作品 ル・コルビュジエ			(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.64-65
映像メディア表現	人物を撮影する	(3) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ウ)	(1) アイ	P.66-67
	比べて鑑賞する 人を撮る		(1) ア (ウ)	(1) アイ	P.68-69
	テーマを決めて撮影する	(3) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ウ) イ (ア)	(1) アイ	P.70-71
	写真表現の可能性		(1) ア (ウ) イ (ア)	(1) アイ	P.72-73
	アニメーションをつくる	(3) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ウ)	(1) アイ	P.74-76
資料	さまざまな絵の具	(1) イ (ア) (イ)	(1) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.78-79
	鉛筆で描く	(1) イ (ア) (イ) (2) イ (ア) (イ)		(1) アイ	P.80-83
	水彩絵の具で描く	(1) イ (ア) (イ)		(1) アイ	P.84-85
	油絵の具で描く	(1) イ (ア) (イ)		(1) アイ	P.86-87
	アクリル絵の具で描く	(1) イ (ア) (イ) (2) イ (ア) (イ)		(1) アイ	P.88-89
	日本画の絵の具で描く	(1) イ (ア) (イ)		(1) アイ	P.90-91
	版画の技法	(1) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.92-95
	彫刻(塑造)の技法	(1) イ (ア) (イ)		(1) アイ	P.96-97
	文字をデザインする	(2) イ (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.98-99
	写真を撮影する	(3) イ (ア) (イ)	(1) ア (ウ) イ (ア)	(1) アイ	P.100-101
	映像を撮影する	(3) イ (ア) (イ)	(1) ア (ウ)	(1) アイ	P.102-103
	発想の広げ方	(1) ア (ア) (イ) (2) ア (ア) (イ) (3) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) (ウ)	(1) アイ	P.104-105
	美術館を楽しむ		(1) ア (ア) (イ) (ウ) イ (ア)	(1) アイ	P.106
	美術鑑賞を楽しむ手がかり		(1) ア (ア) (イ) (ウ)	(1) アイ	P.107
	美術史年表		(1) ア (ア) (イ) (ウ) イ (イ)	(1) アイ	P.108-110
	デザイン史・写真史年表		(1) ア (イ) (ウ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.111-113
	色の特徴を知ろう 色の性質	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)			P.114-115
	色の特徴を知ろう 色の効果	(2) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) (ウ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.116-117
	色の特徴を知ろう 配色のヒント	(3) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)			P.118-119
	【切り離し式】色彩図鑑	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ) (2) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)			P.121-122
	【切り離し式】混色のヒント	(3) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) (ウ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.123-124
	あとがき		(1) ア (ア) (イ)	(1) アイ	P.120,125